

学芸員 奥住 淳

◆ 徳蔵寺の伝承と釈迦如来坐像

徳蔵寺の伝承

飯櫃城跡の麓にある徳蔵寺は、城主であった山室常隆の開山とされる日蓮宗の寺院です。その由緒については、『総州山室譜伝記』の「多古城主牛尾能登守落城の事、並びに徳蔵寺開山の事」に以下のように記されています。

弘治元（1555）年6月、飯櫃城主山室常隆と多古城主牛尾胤仲は従兄弟の間柄で仲も良かったのですが宴席で口論となり、佐野原（現多古町）の馬場で戦うことになりました。この戦いに勝利した常隆は、多古城を攻め落としました。城主の胤仲は落ち延びますが、その夜多古の真弘寺に常隆が泊まっているところを胤仲が夜襲をかけようと計画します。しかし、これを知った住職の重如坊が常隆を守って飯櫃城へ逃がしました。重如坊は武勇に優れた僧で、常隆と日頃より仲が良かったとのこと。その恩により重如坊

は、常隆から寺地を賜って、三十番神（法華経を守護する神）を祀った飯屋に住み、常隆山徳蔵寺として開山し、日能と改名し山室氏の祈禱僧になりました。

山室氏と牛尾氏の戦い

弘治元年10月1日、佐野原の戦いで敗れた牛尾胤仲は、反撃に出て飯櫃城を夜襲しますが失敗します。さらに同月3日にも飯櫃城を攻めますが敗れて、胤仲は妙光寺（現多古町）で自害し、多古の高根権現に祭られたと『譜伝記』は伝えています。しかし、胤仲は天正5年（1577）に妙光寺に娘の病氣快癒を祈願する鰐口を寄進しているのので、『譜伝記』の記述と一致しない点もあります。牛尾氏は、千葉氏の支流で牛尾城（現多古町牛尾）を本拠としていました。戦国時代には勢力を広げ多古城主になったとされます。山室氏とは領地を接していたこともあり

抗争を繰り返していたことは十分に考えられます。

釈迦如来坐像

徳蔵寺本尊は、木造の釈迦如来坐像で、像高が15・3センチの仏像です。『譜伝記』によれば、本像は重如坊が山室常隆を多古から逃がした際に懷中に忍ばせて持ってきたものとされます。台座に墨書銘があり、永禄10年（1567）の造立で、山室氏の家老奴賀源太左衛門や平山・宇野澤・大木・麻生・木内・愛川・大原・関・飯田など14名の家臣によって奉納されました。この墨書銘については『譜伝記』にも記されていることから、作者は実際に仏像を見ていたと考えられます。仏師は不明ですが、作風から新井田・称名寺の阿弥陀如来坐像のほか、成田市の円通寺、栄町の龍角寺、佐倉市の海隣寺、旭市の長禅寺の仏像を造った浄慶の可能性が高いとされています。



徳蔵寺・釈迦如来坐像



釈迦如来坐像墨書銘

これらの地域は戦国時代の千葉氏の支配領域に当たり、浄慶はその庇護のもと造仏活動を行っていました。当時飯櫃は山室氏、新井田は山中城主和田氏が治めていて、両氏ともに千葉氏に従っていましたので、浄慶作の仏像があると考えられます。本像は、墨書銘により造立年代や造立の趣旨が分かる貴重な仏像であることから、町指定有形文化財に指定されています。

教室の窓から 115 こんにちは

芝山中学校 <養護教諭> **井坂 智子** 先生

- Q ▶ 子どもの頃の思い出**
A ▶ 外で鬼ごっこや鉄棒などで遊んでいました。
- Q ▶ 教員を目指したきっかけ**
A ▶ 子どもが好きで、人と関わる仕事がしたかったから。
- Q ▶ 生徒たちの魅力**
A ▶ 明るく素直で、一生懸命頑張るところ。
- Q ▶ 挑戦してみたいこと**
A ▶ 富士登山。



- ☆けがをしたとき、優しく対処してくれます。
- ☆保健だよりがとても見やすい。
- ☆野球好きです。
- ☆とっても相談しやすい先生。
- ☆たまに毒舌になるよ。

好きな言葉

「笑う門には福来たる」

笑うことはストレスが軽減したり、免疫力が上がったりするなど、心にも体にもよい効果があるからです。なるべく笑顔でいることを心掛けたいです。

教頭先生EYE

井坂智子先生は、芝山中学校に東金市立西中学校から4月に赴任しました。養護教諭として生徒や先生の健康や保健に関わる仕事を担当しています。毎日、保健室でけがや病気の生徒への対応や相談を行っています。また、各学年の歯や食育の保健指導も行い、生徒のすこやかな成長を願う優しさあふれる先生です。



次回は芝山小学校「椎名悦江」先生が登場

10月19日 アクアラインマラソン応援団



アクアラインマラソンの応援に木更津市まで行ったよ。応援団のみんなと一緒に、一生懸命に選手を応援したッコ！

10月26日 成田-熊本線新規就航イベント



成田空港から熊本県へ、飛行機が飛ぶようになったよ。九州のキャラクターともお友達になってみたいなあ。

